

弊社の障がい者支援事業部への想い

堀江車輛電装株式会社

■新規事業の始まり

弊社代表は、【人を大切にする】という想いを強く持っています。

「出会いに偶然はない。必然である。」という言葉が、今まで弊社代表が生きてきた中で、とても大事にしている座右の銘です。

きっかけはいつも近くに転がっています。弊社代表は、2013年から知的障がい者サッカー日本代表チームの支援活動をしてきました。きっかけは知的障がい者サッカーの国際大会である「もうひとつのW杯」南アフリカ大会の動画をインターネットで見つけ、知的障がいがある選手がボールを必死に追いかける姿に感動し、日本知的障がい者サッカー連盟宛にメールを送ったことです。試合見学に行ったり日本代表合宿の手伝いをしたりと時間を共有する中で、理事長・監督・コーチ・選手のサッカーに対する熱い気持ちや姿勢に何度も心を打たれ「障がいがある人の力になりたい」と強く想いました。この純粋な「想い」が障がい者支援事業立ち上げの原点です。それぞれの「想い」を持っている社員と共に、障がい者福祉の「セカイ」を変えます。トライアングルは常にチャレンジしていきます。

弊社代表は上記のように、講演会の参加をきっかけに、知的障がい者サッカーの支援を始め、福祉業界に初めて足を踏み入れました。そこで見えてきた課題は「障がいがある人の選択肢の少なさ。」弊社の新規事業部で解決していこうという強く想った瞬間でした。

■代表の想い

堀江車輛電装株式会社が目指すのは「柔軟な発想と実行力で、広く深く社会に貢献する企業」です。

私自身、弊社の主力事業である鉄道車両事業も、新しく発足した障がい者支援事業、ビルメンテナンス事業も、その3事業は大きく社会に貢献する仕事だと考えます。なぜなら鉄道はダイレクトに人々の生活に直結する事業です。また、障がい者支援事業は、サービスの提供を通じて、課題解決を実施するという想いをもとに障がい者の安心・安全な「衣・食・住」を実現したいと考えております。また、ビルメンテナンス事業では、弊社での障がい者雇用を通じて、働きたいと願う障がい者の雇用を実現します。そして、ビルメンテナンスを通じて、お客様の描く「物件の価値向上」を実現したいと考えているからです。

そして、3事業が相互にプラスの関係を築くと確信しております。お客様には、常々、車両部と障がい者支援事業部、ビルメンテナンス事業部の関係性を問われますが、弊社が導く「広い意味での社会貢献」を今後も皆さんにお伝えして参りたいと考えております。

■ 障がい者支援事業部のサービスと今後

現在、障がい者支援事業部では、

- ①障がいがある方専門の人材紹介
- ②障がい者雇用に対するコンサルティング・アドバイザーサービス
- ③障がい者雇用に関する各種勉強会の実施
- ④教育機関（特別支援学校、大学等）向けのセミナーの実施
- ⑤大学キャリアセンターや学生支援室への協力
- ⑥知的障がいがある小学生向けのフットサルスクール
- ⑦知的障がい者と健常者のフットサルクラブの運営

といった7つのサービスを展開しております。

また、将来的に、自社内の障がいのある方の雇用拡大を目指した飲食事業（ジェラート）、障がいがある方専門のグループホームの運営、地域の支援機関と連携した新規サービスの提供などを考えております。

■ 障がいがある方専門の人材紹介

障がいがある方専門の人材紹介は、「時間をかけ、とことん相手に向き合う」ことがモットー。このことこそ、弊社の人材紹介のセールスポイントです。

障がい者雇用に取り組みたい、取り組もうとしている、取り組んでいるが苦戦をしているといった企業には、弊社のコンサルタントが訪問し、企業の悩みやニーズをヒアリングするところからはじめます。こうして、弊社と力を合わせ障がい者雇用を進めていくことになった求人企業には、事前の打ち合わせを最低1時間以上実施。現状の障がい者雇用の状況や指導者の有無、今後の採用計画やキャリアプラン、そして、経営層の雇用への考え方まで、しっかりとヒアリングさせていただきます。こうした中で、障がい者雇用に関して理解のない企業の求人はお断りすることも。時間をかけて、とことん向き合うということは、障がい者雇用について共に歩むパートナー。だからこそ、想いのある企業との関係を大切にしたいと考えます。

そして、企業に対して向き合うのと同じように求職者とも、まずは信頼を築くことから始めます。例えば、企業に紹介する前に何度も面談をすること。求人企業の理解のために面接練

習や履歴書の添削などに注力すること。また、求職者の親御さんやご家族とお会いし、価値観を共有することにも余念がありません。企業に入社した後の不安や、指導方法への不満などはつきものです。その際に、親御さんやご家族が企業と同じ方向を向いていないと、退職の依頼が出てくる可能性があります。本人が働きたいと考えていても、このような事態が起きてしまうのは、本意ではありません。弊社のコンサルタントは親御さんやご家族の不安事項を入念に聞き取り、入社する企業の方針や指導者の人柄を伝え、多方面からの支援体制を構築することで継続的な就労へと導きます。

こうした作業は、一見時間のかかる作業ではありますが、こうした丁寧なトータルでサポートをすることで、入社後のミスマッチを防ぐことになるのです。求職者、企業、ご家族の3者のハンズオンがある。こうして誰もが喜べる、障がい者の就労が実現できると弊社は考えています。

■ 障がい者雇用に対するコンサルティング・アドバイザーサービス

障がい者雇用に対するコンサルティング・アドバイザーサービスでは、企業における障がい者雇用の促進を経験豊富（社会福祉士・精神保健福祉士・ジョブコーチ等）な弊社コンサルタントからアドバイスいたします。

例)

- ・特例子会社の立ち上げに関して
- ・事業所での採用、業務切り出し、再構築
- ・大幅は欠員が出た際の採用計画の見直し、立案
- ・経営層への障がい者雇用への理解促進
- ・弊社の雇用計画や採用方法の共有
- ・障がい者雇用指導者の育成、研修
- ・在宅ワークの計画立案等

政府が唱える、「1億総活躍社会」を実現する際に必須となる障がい者雇用は、平成30年に精神障がい者の雇用義務化を控えています。平成28年の時点で精神障がい者の雇用の実現や、採用計画を計画的に立案している企業が、顧客にも障がい者にも選ばれる「いい会社」と評価される社会になるでしょう。

■ 障がい者雇用に関する各種勉強会の実施①

弊社では「福祉を照らす会」という勉強会を、事業部立ち上げより継続的に実施しております。本会は、障がい者雇用に関わる支援者と学生と企業をつなぎ、福祉におけるあるべき

論を共有し合う目的で開催しています。また、支援者・学生・企業それぞれの仕事に対する意欲や価値観を共有することで、明日からの支援のモチベーションを向上してもらう目的も兼ねております。弊社が企画から運営まで実施している福祉を照らす会は、これまでに、総勢 250 名以上の方にご参加いただきました。この会がコミュニティとなり、新しい支援のスタイルや障がい者雇用に必要な支援のノウハウが構築される。我々だけが、福祉業界を良くするのでなく、参加していただいた方々と一緒に前へ進みたいと考えています。

■ 障がい者雇用に関する各種勉強会の実施②

弊社では「障がい者雇用相談会」という勉強会を実施しております。本会は、企業において障がい者雇用携わる方限定の会となっており、2016 年 4 月から施行された、障害者差別解消法の具体的な対応方法や、研修・教育方法を学びます。

2016 年 4 月から始まった本会は、すでに、20 社程度の会社にご参加いただき、福祉を照らす会同様に、コミュニティにして参りたいと考えております。障がい者雇用に関係のある人事や管理部門の方から、仕事を直接指導する立場の方、これから障がい者雇用を進めていきたいと考える企業の担当者、そして、経営層の方など、幅広い方々が一堂に介し、障がい者雇用について考える会となっております。

なぜ、企業限定なのか。企業での障がい者雇用は、2020 年のパラリンピックや 2030 年の精神障がい者の雇用義務化を目前に、今後ますます注目をされていくことが予測されます。だからこそ今のうちから、企業が考える障がい者雇用の課題や解決方法を社会へ訴えていく必要があると考えるからです。

障がい者雇用のキーファクターである企業。こうした取り組みは、障がい者雇用の促進の核となる部分を担うことはもちろん、ダイバシティの実現や労働人口減少に対する、重要な一手となると我々は確信しております。

■ 教育機関（特別支援学校、大学等）向けのセミナーの実施

弊社では、特別支援学校や大学などの教育機関に向けたセミナーなどの登壇機会を積極的に設けております。

例)

- ・社会貢献とビジネスの両立
- ・在学中にすべき、就活の準備
- ・中小企業のインターンシップに関する取り組み

- ・就労と余暇の両立
- ・親御さんが取り組むべき、障がい者雇用
- ・障がい者雇用のいま等

障がい者雇用に関する業界の情報から、弊社の障がい者雇用の取組み、就職を控えた障がいがあるお子さんを持つ親御さんの心がけなどをお伝えしております。企業と障がい者を結び付ける橋渡し役を担っていると自負する弊社ならではの、物事の捉え方・考え方を1人でも多くの方々に届けて参りたいと考えております。

■ 大学キャリアセンターや学生支援室への協力

大学キャリアセンターや学生支援室に対して、障がいがある学生に対する支援をサービスとして実施しております。障がいがある学生への合理的配慮が必須となる教育機関に、配慮の方法から就職活動全般のサポートまで、高い水準での貢献度が求められるサービスを提供しております。

例)

- ・在学中の障がいがある学生に向けた就活セミナー
- ・個別の面接指導、履歴書添削
- ・キャリアセンター職員への相談対応に関するアドバイス
- ・障がいがある卒業生向けの人材紹介
- ・キャリアセンター職員向け研修等

実績を1つ1つ積み重ねたことで、多くの大学から相談を受ける機会を頂いております。

最近の事例で、関わる人全てがwinになった事例を共有したいと思います。

2016年3月に大学を卒業したAさん。ADHD、言語障がい、聴覚障がいといった重複障がいを抱えおり、紹介事業においては、困難なケースであると認識される場合が多い方です。

そんなAさん支援の依頼を受けたのは2016年4月。弊社が新卒採用の件で伺った、キャリアセンター長からのご紹介でした。面談を2度実施し、弊社として、Aさんの就職に向けて本格的に始動することを判断。その理由として、本人の誠実な姿勢、インターンや海外生活の経験があげられました。紹介先は、日頃からお付き合いのあるB社。3回の面接の後、2週間の実習を終えて、無事に内定獲得まで至ることが出来ました。

困難ケースとされがちなこの事例、実はたくさんの人のバックアップが功を奏しました。

そのキーマンとなったのは、親御さんとゼミの元指導教諭。親御さんからは、Aさんに対する言葉かけや学習方法などの配慮事項。元指導教諭からは、インターンで体験したことの重要

性や彼の学習に対する意欲や指導者としてのアプローチ方法等の全面的なバックアップ。また、弊社コンサルタントが親御さんやゼミの指導教諭に直接会うことによる、信頼関係の更なる構築。こうした積み重ねが、困難ケースから人材紹介へと導いたと考えます。

困難ケースとされていた A くんですが、B 社の担当者からも、「誠実に物事に取り組む姿勢と課題解決に対する意欲が素晴らしいので採用しました。」とお言葉を頂いております。

現在では、A さんの内定・就職がより一層良いものになるよう、支援を継続しているところです。

■ 知的障がいがある小学校向けのフットサルスクール

障がいがある方の親御さんや特別支援学校の先生たちの「障がいがある子どもたちの余暇を過ごす場所が無い」といった声から生まれた知的障がいがある小学生向けのフットサルスクール。子供たちに純粋に楽しんでもらえる居場所を提供しております。このフットサル教室は、現段階ではお金を集めていません。まずは、「障がいがあっても楽しく、そして安心してスポーツに取り組める場所がある」ということを障がいがある方、そしてその関係者の皆様を知って頂きたいと思っております。

将来的には、誰もがスポーツを体験することが出来る場の提供や、企業とお子さんがスポーツを通じて触れ合うことのできる場の提供などを実現して参りたいと考えております。この2つを実現することで、誰もが活躍することが出来るダイバシティーな社会に貢献することが出来ると考えております。

■ 知的障がい者と健常者のフットサルクラブの運営

知的障がい者と健常者がまぜこぜでプレーするフットサルチーム「FC Tryangle Tokyo」を運営しております。障がい者支援事業部が運営の中心を担うチームであり、フットサルを通してチームメイトとのつながりや競争意識を持ち、「目標」や「夢」を持って生活する人を育てます。また、2017 年に東京都フットサルリーグへの登録、2019 年には日本代表選手クラスの育成・輩出を目標としております。

本チームに参加する選手は、フットサル・サッカーに通じる基本能力の向上、そして、余暇活動の充実を図り、仕事、プライベートでの自立した生活を目指すことを目的にします。

練習内容は下記の通り、実戦を意識した練習が中心となっています。

例)

- ・フットサルに必要な視野の広げ方

- ・フットサルに必要な判断方法
- ・足裏を用いたストップ&ゴー
- ・ロングキック精度の向上
- ・キーパーの身体の使い方
- ・シュート精度の向上
- ・1 vs 1 の駆け引き等

ある日の練習後には選手同士、自らの短所と長所を話し合う機会があり、改善を行おうとする姿が見られ、意識の高さを感じることができました。本チームの監督からは、「60%の力で練習するのではなく、常に100%の力を出し切ることで、本番でも使えるようになる」と練習を本気で取り組む重要性を指導されていました。

このチームは、「府中スポーツガーデン」にて 20:00～22:00 の練習を随時予定しております。

■ビルメンテナンス事業との連携

堀江車輛電装株式会社は、2016年4月1日付でビルメンテナンス・清掃を行う事業部門としてビルメンテナンス事業部を立ち上げ、「ビルディング・ピュア・サービス」を開設いたしました。当サービスは、昨年、ご縁をいただきました、高田産業株式会社の清掃事業を買収し、引き継ぐことで、スタートさせることができました。これまでのサービス、技術のノウハウを基本とし、さらに技術を磨きあげ、より新しい視点で、高い付加価値をご提供できるよう努力を傾注してまいります。

特に当サービスは、すでに事業推進しております障がい者支援事業部「トライアングル」との連携を積極的にはかりながら、社会に貢献していきたいと考えております。

具体的には、弊社社員による支援機関へのノウハウ伝授や、障がい学生の実習生受け入れの実施を中心に、弊社内での障がい者雇用の促進を目的としております。

規模を限定せずアパート、マンション、ビル、オフィス内、商業施設、工場などどのようなオーダーにもきめ細やかに対応させていただきます。ビルメンテナンスを通じて、お客様に付加価値・満足度の高いサービスを展開したいと考えております。

■大学生のインターンを受け入れる理由

弊社では通年、大学生の学生インターン生の受け入れを積極的に行っております。2015年度は総勢、15名。2016年度は、30名程度の受け入れを予定しております。学生がイ

インターンに来る理由は様々。福祉を学びたいため、就職活動を有利にしたいため、社会人ってどんなことをするのか知りたいため…。そして、どんな理由だろうと、インターンに来た学生には必ず、障がいがある方と接する機会を設けております。中には初めて障がい者と話す学生もいます。これまでのイメージとのギャップに驚く学生もいます。学生が弊社にインターンに来たからといって、必ず福祉業界に行くとは限りません。むしろ、その数は少ないかもしれない。しかし、弊社がインターン生を受け入れる理由は、いつかどこかで障がいがある方と出会った時に、弊社で学んだ経験を活かしてほしいから。長期的な目線を見た、障がい者の支援が大学生のインターンを受け入れる理由の一つにあります。また、大学生という若い発想力や行動力を通じて、新たなサービスを提供する為のヒントを頂いております。

■ 障がいがある実習生を受け入れる理由

弊社では通年、各支援機関や教育機関、そして行政から障がいがある方を実習生として受け入れております。これまで延べ 30 名。障がいの種別に関係なく、様々なバックグラウンドを持つ方々の受け入れを通年で継続して参りました。

障がいがある方を実習生として受け入れることは、障がいがある方の雇用の促進の一助になることはもちろん、自社内の障がい者雇用の促進にも非常に大きな効果をもたらしています。実習生には、弊社の各種業務を実習していただきます。社員はそのサポートや指導を一緒に行います。普段、自分たちが取り組んでいる仕事を通して、障がい者の方とかかわりを持つことは、弊社の社員の障がい理解や、現場一人一人の意識の向上に対して、一番有益な方法だと考えております。また、今後、注力していく自社内での障がい者雇用に向けて、弊社の課題発見にもつながります。また、実習生を支える支援者の方々と支援の価値観を共有することが出来る点も魅力の一つです。

今後も実習生を通じて、弊社の障がい者雇用の厚みを広げていきたいと思っております。

■ 日本知的障がい者サッカー連盟との関わり

弊社では、弊社が障がい者支援事業部を立ち上げるきっかけとなった日本知的障がい者サッカー連盟と強いパートナーシップを結び、2015 年から継続的にサポートをしております。日本知的障がい者サッカー連盟の関係者は、皆がボランティア。人々の善意によって運営がされております。

具体的には、広報活動の運営資金の支援活動。WEB の更新や Facebook の投稿、PR 動画の作成や選手・監督への取材、スポンサー企業との手続きや T シャツ販売促進に関する

る企画・運営など内容は多岐にわたります。このサポートは、知的障がい者との関係の構築はもちろん、障がい者の支援に想いのある、他の障がい者スポーツ団体や大学などの日本知的障がい者サッカー連盟を取り巻く多くの方と関わる機会となり、障がい者支援事業部をはじめ、弊社の事業を多くの人に知っていただくための非常に重要な活動だと考えております。

■ 支援機関との関わり

今後弊社が、障がい者支援事業の業務領域を広げる為に欠かせないことが地域の支援機関との連携です。現状は、地域の特別支援学校の会議室の貸出や支援機関の事業所貸出など、勉強会を中心とした連携が主たる事例ですが、サービスの提供に関するアライアンスを締結する準備をしております。弊社は「企業と障がいがある方と親御さんをつなぐ橋渡し役」という特徴を活かし、支援機関は、「地域の強い関係性やニーズの聞き出し役」という強い特徴を活かし、二社の相互連携における新たなモデルの構築を考えております。農業と福祉を組み合わせた農福連携や株式会社の福祉業界への参入など、ここ数年、福祉の新たなステージへ追い風が吹いていることは確かです。支援機関と連携し、弊社ならではのモデルを構築することで、弊社が目指している「衣・食・住」サービスの提供へ邁進して参ります。

■ 2020 年以降の障がい者福祉業界

東京五輪が開催される 2020 年には、障がい者福祉の業界の流れも大きな変化を遂げていると予想されております。パラリンピックの開催に向けた障がい者スポーツへの傾注を筆頭に、国内の障がい者に関する配慮が注目を集めることは確実です。それに伴い、国力を示す為の予算も多く組まれるだろうと予想できます。それらは、障害者総合支援法の見直し、障がい者スポーツの発展、6 次産業化、農福連携、精神保健福祉のあり方、発達障がい者のサービスの拡充等へ活用されると考えられます。4 年後の福祉業界が、今よりもっとニーズに近いサービスの提供と障がい者の社会進出の発展に寄与出来ていることを願うことも重要ですが、弊社は自ら行動し、考え、新たなサービスを提供し続ける役割を担います。2020 年という一大イベントの後にも、継続的に「柔軟な発想と実行力で、広く深く社会に貢献する企業」であり続けられる姿であるために、将来を見据えた行動が出来る企業でありたいと考えております。